

「天気的神様」お願い!!

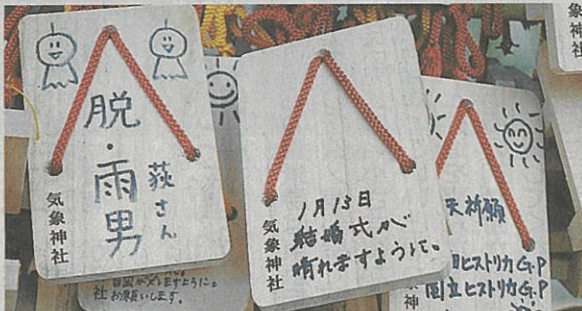


象神社

国内唯一「気象神社」 プロ球団も花火大会主催者も エアコンメーカーも

お天気的神様として知られる神社が東京・高円寺にある。その名も気象神社。日本で唯一とされ、催し事やビジネスの成功のために祈りに来る人たちも。今年も女性の宮司が就任。神社離れが進む中、「天気を入り口に神社と人々がつながるきっかけになれば」と話している。

東京・杉並



上 気象神社(写真奥)の松井美加子宮司。げたをかたどった絵馬が多く奉納されている
下 絵馬には、天気に関するお願い事が書かれている
|| いずれも東京都杉並区高円寺南4丁目目の気象神社

「結婚式が晴れますように」「脱・雨男」「旅行がいい天気に恵まれますように」気象神社があるのは高円寺氷川神社(東京都杉並区)の境内。掛けられている絵馬は天気に関することばかり。天気占いに使われるげたをかたどった1枚500円の絵馬は、多い月は600枚出るといふ。禰宜の紺谷大進さん(39)は「効果があったとお礼参りに来てくれる参拝客も多いです」と話す。

スタジオムは屋外球場のため、天候に左右される」。花火大会など屋外イベントの主催者や、天候が売り上げを左右するエアコンやタイヤのメーカーも足を運んでいるという。

前年から、合格祈願の場として参拝客が増加。メディアに取り上げられるようになったほか、最近はお天気的神様としてSNS上でも話題になった。

月に3、4件は祈禱も入る。プロ野球・横浜DeNAは2015年から毎年、球団専務らが晴天祈願に訪れる。広報担当者は「横浜

気象神社の始まりは、戦時中の1944年。東京都杉並区にあった旧陸軍気象部が、戦闘機の出撃を決める際に必要だった天気予報の的中を祈るため、建てた。終戦後の48年、気象部に知り合いが多かった2代前の宮司が声をかけ、高円寺氷川神社内に移された。

そんな気象神社の宮司に今年4月、松井美加子さん(53)が就任した。先代宮司の一人娘で、「子どもの頃から継ぐものとされて育った」。地鎮祭でのおはらいや社務を手伝ってきたが、父親が体調を崩し、代替わりすることになった。

最近では国内にとどまらず、海外からの参拝客も訪れるという。松井さんは「全国に神社は8万社あるといわれているけど、お天気的神様はここだけ。カッパルのデートコースにもなっている」と話した。

(山岸玲)